



武収第667号の2
平成19年5月8日

国土交通省 道路局長 様

武蔵村山市長 荒井 三 男



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について（回答）

新緑の候、貴職におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

日ごろ、当市の道路行政等の推進につきまして、特段の御高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、人口の都心回帰の動向が強まる中で、都心及びその周辺での都市再生が進み、多摩地域においても郊外型の大規模商業施設の進出などが盛んに行われ、まちづくりや地域生活を支えるための道路整備がますます求められております。

このような中、当市中央部に位置する日産自動車村山工場跡地では、延べ面積17万平方メートルにも及ぶ大規模商業施設が平成18年11月にオープンし、市の活性化を担う重要な施設として、市といたしましても大いに期待しているところでありますが、周辺道路の渋滞が著しく終日悪化の傾向にあります。このような当市の現状を踏まえ、平成19年4月2日付国道企第114号で国土交通省道路局長より依頼があったこのことにつきましては、下記のとおり回答いたしますので、よろしくお取り計らいくださるようお願いいたします。

記

1 当市の要望事項

道路特定財源の存続

- (1) 幹線道路（特に、新青梅街道）の優先的な整備の実施
- (2) 生活道路、狹隘道路の整備などに対する道路・交通対策事業への補助拡充等
- (3) 道路の維持管理に要する助成の充実

2 要望の理由

現在、当市では、大規模商業施設などのオープンにより、交通量が格段に増え、交通ネットワーク化が求められており、また、昭和の時代「農業から工業」への変貌を遂げたように、「工業から商業」への時代を迎えつつあります。しかし、こうした新時代の幕明けを迎えた期待感の高揚の裏では、交通集中に起因する渋滞の発生や骨格道路の不足から生活道路や狹隘道路が抜け道化するなど、渋滞緩和や交通安全対策等の対応が行政にますます求められているところであります。

加えて、当市における都市計画道路の整備率は約49パーセントに留まっており、軌道交通を有さず自動車交通に頼らざるを得ない当市といたしましては、未整備区間への早期着手は喫緊の課題であります。特に、市内の主要な骨格幹線道路である新青梅街道の拡幅再整備や多摩都市モノレールの延伸といったインフラの整備は、全市民が待望しているところであります。

また、生活道路についても幅員6メートル未満の道路が全体で約80パーセントを占めているのが現状で、幹線道路の整備と合わせて狹隘道路の拡幅整備が求められているのが現状です。

このようなことから、道路関係予算の増額確保などを含む道路特定財源の存続について、強く要望するものであります。

※ 東京都郊外にありながら、軌道交通を有さず、骨格幹線道路の整備の遅れや、生活道路、狹隘道路の整備などに対応する財源不足などの課題の多い当市について、是非、御視察いただければ幸いです。

広大な自動車工場跡地



自動車工場跡地にオープンした大規模商業施設



早期の拡幅再整備を待つ骨格幹線道路の新青梅街道



都市計画道路として早期の整備を要望中の幹線道路
(主要地方道(55)号線) 通学路として利用される狭隘な歩道



抜け道として利用される生活道路(狭隘道路)



4m未満の狭隘道路

